

第3章 臨床実習

5. 臨床実習科目

5-1 臨床実習教育の理念・目的・目標の設定と公表について（自己評価 1-1）

大学獣医学科の理念と教育目標ならびに学習者の要求や社会的要請に沿って臨床実習教育に関わる理念・目的・目標が設定され、公表されているかについては5大学ともほぼ適切に実施されているとの自己評価であり、学生への目標・方針の周知についても概ね適切と評価されている。

5-2 臨床実習の開講科目、各科目の教員数、単位、開講年次、班編成、対象動物、研修医、TA などについて（資料 3-2-1～3-2-2）

酪農大では年次進行でカリキュラムが変更中であり、臨床実習については新、旧カリキュラムが混在しているため、名称などに統一性を欠いている。臨床実習科目の開講は3年～6年、伴侶動物実習では1班8～9名、研修医やTAが実習に関わることが多い。クリニカルローテーションでは1班4～5名、伴侶動物の実習は専修コースが13単位と多く設定されている。産業動物実習では1班15～35名産業動物の斉一科目での実習単位が12単位と多い。

北里大では小動物関連実習が11単位、大動物関連実習が5単位で、4～6年次に開講され、1班10～20名、TAは実習科目によって配置の有無が分かれている。

日獣大では主として小動物2単位、主として大動物1単位、両者が対象の科目14単位（野生動物学と学外実習を省いた）。4～6年次に開講、1班7～10名。選択の臨床科目として野生動物学実習1単位が開講されている。TA・研修医は実習科目によって配置の有無が異なっている。

麻布大では主として伴侶動物6単位、主として産業動物3単位、両者対象が2単位で、産業動物基礎実習（1年次・選択）を除き5,6年次開講で1班5～75名と実習内容で人数が異なる。TA・研修医は小動物臨床実習と病院実習のみ参加

日大は主として小動物3単位、主として産業動物1単位、両者対象が8単位、1班7～12名、ほとんど全ての実習でTAが参加している。

・5大学とも非臨床教員は臨床実習には参加していない。

一部患者の臨床検査における細菌検査などへの寄与が報告されている（日獣大）

・5大学とも実習科目と単位、内容については概ね適切と自己評価されている。一方、実施単位（班人数や編成）については概ね適切であるが、今後少人数での実習実施のための改善が必要との評価であった（自己評価 IV-2-1）。

5-3 臨床実習における達成目標と達成度評価、成績評価方法について（資料 3-2-4、自己評価 IV-2-1）

大学ごとならびに科目によって記載内容が異なるため、比較はできない。各大学のシラバスに詳細に記載してあると思われるが、量的な問題で今回はシラバスについては省略した。学生にとって到達目標と成績評価が明確となっていることが必要であるが、自己評価では5大学ともほぼ適切に実施されているとの評価であった。

5-4 講義と実習との関連性について（資料 3-2-5）

実習に先立って講義を実施するなど 5 大学ともほぼ適切に実施されていると考えられ、自己評価でも適切または概ね適切と評価されている（自己評価 IV-2-1）。

6. 臨床実習に関わる実習施設など

6-1 臨床実習で主として使用している実習室、施設とその用途（資料 4-1）

面積や実習用機器の配置が不明であるが、4 大学では実習室、病院ならびに附属農場などを含めて 6~7 施設を用いて実習が行われている。日獣大では 4 施設と他大学に比べ少ないと思われる。

参加型病院実習が開始された場合に、附属動物病院における実習スペースなどが実施可能な状況で確保されているか否かの検討が早急に必要である。

6-2 臨床実習に関わる実習用機器（資料 4-2）

実習用機器については各大学での実習内容に応じた整備がなされていると考えられるが、日大では不十分で更なる充実が必要との自己評価であった（自己評価 IV-2-1）。病院施設を利用した実習では、使用機器が実習のための機器か病院の機器かを区別するなどの検討が必要と考えられる。

6-3 臨床実習で使用する動物について（動物種と頭数）ならびに動物福祉・獣医倫理的教育について（資料 4-3-1）

実習に使用されている動物種は伴侶動物では主として犬（一部猫も使用）と産業動物では主として牛（一部豚と馬を使用）ならびに動物病院における臨床例である。症例として実習で使用する場合に学用患畜として取り扱うのかあるいはその他の手続きに基づいて実施するのかについて記載されていないので不明であるが、今後参加型臨床実習を実施するためにも手続きの明確化が必要と考えられる。

5 大学とも動物福祉・獣医師倫理については種々の講義などで適切に行われているとの自己評価であった（自己評価 IV-2-1）が、臨床実習に当たって担当教員からこれらの点について十分説明がなされているのかについては不明であった。実習用動物の安楽殺処分時などに学生へのきめ細かい説明が必要と思われる。

6-4 臨床実習で使用した動物の実習終了後の処置について（資料 4-3-2）

酪農大では犬については継続的に飼養管理、臨床例（犬、猫など）については原則的に飼い主に戻し、牛については実習内容によって安楽殺処分もしくは症例として使用している。

北里大では犬については実習内容に応じて使用後、安楽殺もしくは継続飼育。牛などでは売却、飼育、譲渡、安楽殺後、病理解剖。

日獣大では犬、猫については再度利用または安楽殺、牛については出荷。

麻布大では例外を除き、安楽殺処分。

日大では犬のほとんどと牛については継続飼養、外科実習では安楽殺。

各大学とも実験動物委員会あるいは実習倫理委員会が設置されている（平成 12 年度調査）ので、臨床実習に使用される動物についても適切に審査され、安楽殺処分も含めて認可されていると考えられる。しかしながら、産業動物についても動物福祉の観点から今まで以上に求められていることから、この点については今後より詳細な注意が必要である。

6-5 臨床実習用動物の経費について（資料 4-3-3）

酪農大では犬については担当教育群での実験実習費、使用施設整備は学部経費、牛などでは解剖体経費として学部経費で年間 350 万円から 450 万円。

北里大では動物費として学部予算に 500 万円、小動物と大動物の購入維持にほぼ同額使用。

日獣大、総額 1,430 万円が使用（産業動物 820 万円、犬 470 万円、その他 140 万円）。

麻布大では牛ならびにビーグル犬購入費は学部で予算化（金額不明）、そのほかは実習予算から支出。

日大 毎年 500 万円が動物費として予算化され、犬、牛、豚の購入、飼料代、運搬の経費に使用。

5 大学とも臨床実習用動物の経費は学部で計上されている。金額の多寡は使用動物の用途、使用明細が不明であるので単純に比較はできないが、臨床実習で使用される動物の種類や数が教育目標を達成するのに適切かどうかの自己評価では麻布大が適切、酪農大、日獣大がほぼ適切、北里大と日大が適切でない部分が多いとの評価であった（自己評価 IV-2-1）。

6-6 臨床ラウンド実習の実施状況について（資料 4-6）

5 大学全てで附属動物病院の各診療科を使用した臨床ラウンド実習が行われている。

酪農大では斉一科目として全学生を対象したラウンド実習と専修教育としてのラウンド実習が設けられているが、他 4 大学は全て斉一科目で全学生を対象として実施されている。

今回の調査では実習の時間数の評価や問題点などについての調査を行わなかったが、ラウンド実習は多くの臨床系教員が担当しており、また、各大学全てで診療補助スタッフも多数担当していることが報告されている。学生にとって有用な実習ではあるが、臨床系教員の負担もかなり多いことが予想され、実施方法や診療補助スタッフの臨床教育への参加の評価などを行う必要があると考えられる。

6-7 臨床実習における動物病院の活用（年間症例数と学用患畜）について（資料 4-7）

動物病院における産業動物の年間症例数では酪農大、北里大、麻布大では数千頭あるが、日大では 28 頭、日獣大ではゼロであった。酪農大と北里大ではほとんどが牛であるが、麻布大では豚の割合が大きい。

学用患畜の取扱が大学で異なるので単純に比較できないが、酪農大では学用患畜として取り扱われるのは 400 頭、北里大では 3,700 頭、麻布大では 1,500 頭であり、そ

れぞれほとんどが牛である（少数の馬、緬山羊がある）。

伴侶動物の年間症例数は8,000頭～15,000頭で、その85～90%が犬で、残り10～15%が猫である。学用患畜数は、酪農大と日獣大では学用患畜頭数はゼロ、日大で3、北里大で約100、麻布大で約750頭であり、この差は学用患畜の手続きの大学間での違いを反映していると考えられる。

6-8 学用患畜の手続きについて（資料4-7-2）

酪農大では産業動物のみが学用患畜として使用されており、飼育者からの提供（金銭を伴わない）の申出を受け、所有者の移動など各教員が対応している。北里大では約3,700頭が学用患畜とされているが、この際技術料などは免除され、使用した薬品や消耗品の実費のみを所有者に請求している。麻布大では牛については約1,500頭全てが学用として取り扱われている。

酪農大では伴侶動物についての学用手続きは行わず、担当教員が担当教員（主治医）の判断で飼い主の提供を受け、準学用患畜扱いとして使用する場合がある。

北里大では申請書類を動物病院に提出し、申請書類提出と同時に申請内容を臨床系教職員にメール配信を行い、了承を得る。基本的には申請されたものは了承されるが、問題点などが指摘された場合には病院長が最終的な判断をする。

日獣大では動物医療センター倫理委員会と同運営委員会で審議して受け入れる。なお、動物医療センターに来院した動物を一部、学生実習に利用しているが、学生の実習のための患者とは定義していないため、H21年度では学用患畜の実績がゼロになっている。今後、飼い主が治療を放棄したような患畜を大学が引き取り、それを学生実習に使用することも考えているが、現状では、そのコンセンサスが取れていないので、倫理委員会、同運営委員会で審議して受け入れるという表現になっている。

麻布大では来院する伴侶動物についての主治医が動物病院運営委員会に申請し承認を得て、約740頭が手続きされている。

日大では飼い主の承諾後病院運営委員会に提案して承認を受ける。

産業動物と伴侶動物では取り扱いが異なるが、今後の参加型診療実習の手続きも含め、学用患畜の範囲、条件、手続き、飼い主の承認、経費などを大学で明確にする必要があると考えられる。

6-9 特色を有する臨床実習について（資料4-7-3）

一部はいわゆる参加型臨床実習に近い形で実施されている。大学毎に産業動物と伴侶動物について特色を有する臨床実習が行われている。今後の参加型臨床実習にどのように対応していくかの検討が必要と考えられる。

6-10 臨床系教員の教育担当時間配分について

今回は評価対象を実習としたため、各教員の活動時間などの調査は行わなかった。そのため、臨床実習に関わる教員構成についての自己評価のみを記載した（自己評価II-2）。臨床系教員の構成全般では日大が適切、麻布大がほぼ適切、酪農大、北里大、日獣大が不適切な部分が多いという評価であった。不適切な理由は欠員など教員が充足していない点が記載されている。

教育担当時間配分については日獣大と麻布大がほぼ適切、酪農大、北里大、麻布大（産業動物系）、日大は不適切な部分が多いとの評価であった。不適切と評価した具体的な項目として臨床系教員間でも担当時間のバラツキが大きいこと（北里大、麻布大）や教員数の不足（日大、麻布大では産業動物の教員）が指摘されている。酪農大では各教員の講義・実習の持ち時間については同一としたが、診療への関与が教員間で差があり、教育担当に影響を与えていることが指摘されている。

実習担当教員で各大学で補充したい分野については日獣大、麻布大、日大では産業動物関連実習、酪農大、北里大、日獣大、麻布大では伴侶動物関連実習の分野、日大では動物行動学やエキゾチックアニマル学などの分野が記載されている。

6-11 臨床実習教育に係る教育支援者ならびに病院の支援要員の臨床実習教育への関与とその評価について

これらの項目については臨床実習教育に係る教育支援者などについてその定義が不明確なため、自己評価のみを行った（自己評価 III-2）。

臨床実習教育に係る教育支援者あるいは病院の支援要員の臨床実習教育への関与については酪農大が共に不適切な部分が多い、北里大は TA が配置されていない実習があり、十分な支援が得られていない一方、病院の支援要員はほぼ適切に関与しているとの評価であった。日獣大では実習補助として病院助手 5 名が配置されている（待遇は常勤の教育職員の待遇で、主たる業務は動物医療センターにおける診療と 5, 6 年次学生のラウンド実習の指導）が、教員と病院助手の連携が十分でないとの評価であった。麻布大では TA に依存する状況であることと診療実習の支援体制が不十分と評価された。日大では実習の外部講師や TA の増員などを行っており、支援体制は適切に実施されているとの評価であった。

病院の支援要員が実習に関与した場合の教育評価については酪農大が適切でない。北里大と日大が適切でない部分が多い。日獣大と麻布大がほぼ適切という評価であったが、記載内容からすると病院の支援要員についての教育への寄与は 5 大学とも組織的な対応はなされていないと考えられる。

今後参加型臨床実習において動物病院を利用した実習が拡充されることを考えると、病院支援要員がどのような形で臨床実習教育に参加するのかを明確にすると共に、教育への寄与がある場合それを評価するシステムを作成する必要があると考えられる。

7. 参加型臨床実習について

7-1 獣医学生の参加型臨床実習についての実施条件整備状況について（資料 4-9-1）

4 大学では学内委員会などで検討中であるが、麻布大では未検討。

私立獣医科大学協会あるいは全国獣医系大学協議会での共通の指針が決定されるのを待って、各大学での要件を決定する段階と考えられる。

7-2 現在の参加型臨床実習の状況について（資料 4-9-2）

酪農大では伴侶動物実習で教員の監督下で問診や動物の保定などを行い、産業動物実習では往診随行や附属農場の家畜について一部実習を実施している。

北里大学では、伴侶動物に対しては、保定、聴診、入院管理（散歩やシーツ交換など）、採材後の試料の取扱などを行い、産業動物に対しては、教員の監視下で経口投薬や注射などの処置を行っている。

日獣大では採材後の試料の取扱のみを行っている。

麻布大では産業動物については教員の監督指導の下で経口投薬や注射などの処置、手術助手を行っている。伴侶動物では実施されていない。

日大では伴侶動物対象で保定、聴診、触診、心電図検査などを行っている。

現在の実施状況から参加型臨床実習の指針作成については、各大学の実情を踏まえ、伴侶動物と産業動物に関わる実習内容を区別して実施項目などを決定する必要があると思われる。

8. 学外での臨床実習について

8-1 学外での臨床実習の単位認定について（資料 4-10-1）

5 大学とも期間は1～2週間の学外での臨床実習で1単位または2単位の認定がされている。

成績評価は受け入れ先での評価やレポート、報告会での発表をもとに実施されており、各大学とも概ね適切に評価されているとの自己評価であった（麻布大では記載がなかった）（自己評価 IV-2-1）。

8-2 支援体制などについて（資料 4-10-2）

5 大学ともに農業共済組合の診療所、家畜保健所など公的機関で実施する場合には各機関からの案内を学生に事務（担当部局は大学によって異なる）が行い、また、依頼書などの手続きを行っている。

小動物病院での実習は5大学とも原則的には、学生個人が選定するが、教員あるいは大学が紹介する場合もある。

8-3 海外臨床実習について（資料 4-10-3）

5 大学とも海外協定校を中心として海外臨床実習が行われている。通常は1～2名の教員が引率している。

単位認定は学外実習の単位として（酪農大、北里大、日獣大、麻布大）認定している。日大では単位互換制度により演習の単位として認定している。

8-4 学外で実習に利用している施設などについて（資料 4-10-4）

5 大学とも特別の記載はない。

8-5 臨床実習における外部機関との連携などについて

5 大学とも特別の記載はない。

資料

3-2-1 臨床実習各科目の教員数、対象動物などについて

[酪農学園大学]

実習科目名	必修・選択	開講年次	担当教員数	単位数	対象とする動物			班数・班当たり学生数	研修医・TAの有無
					主として 伴侶動物	伴侶動物 と産業動物	主として 産業動物		
伴侶動物医療基礎実習A	必	3年	5	1		実習犬 実習牛		9班 8～9名	有
伴侶動物医療基礎実習B	必	3年	4	1	実習犬			9班 8～9名	有
伴侶動物医療基礎実習C	必	4年	4	1	実習犬			9班 8～9名	有
伴侶動物医療臨床実習	必	4年	12	1	実習犬			9班 8～9名	有
伴侶動物医療専修コースクリニカルローテーション	必	5年	11	6	症例			伴侶動物教育群所属学生のみ、7班、4～5名	有
伴侶動物医療専修コースアドバンスコース	必	6年	11	7	症例			伴侶動物教育群所属学生のみ、7班、4～5名	有
病院実習専修コース	選	5,6年	19	1	症例		症例	班数は選択者の人数による1班3～5名程度	有
総合臨床学実習Ⅱ	必	4	4	3			○	5班・15名	無
総合臨床学実習Ⅳ	必	4	2	3			○	4班・18名	無
総合臨床学実習	必	5	2	3			○	5班・15名	無
総合臨床学実Ⅶ	必	5	2	3			○	2班・35名	無
病院実習	選	6	8	1			○	3～5班	無

[北里大学]

実習科目名	必修・選択	開講年次	担当教員数	単位数	対象とする動物			班数・班当たり学生数	研修医・TAの有無
					主として伴侶動物	伴侶動物と産業動物	主として産業動物		
獣医内科学実習	必	4	3	1	犬			14	TA 2名
獣医外科学実習	必	4	4	1	犬			12	無
獣医臨床病理実習	必	4	3	1	犬			14	TA 1名
獣医臨床放射線実習	必	4	3	1	犬			10	無
画像診断学実習	必	4	3	0.5	犬			10	無
麻酔学・救急医療実習	必	4	4	0.5	犬			12	無
獣医臨床繁殖学実習	必	4	3	1			牛	10	無
小動物総合臨床学実習 I	必	5	5	1	犬			14	TA 1名
小動物総合臨床学実習 II	必	5	3	1	犬			14	TA 1名
小動物総合臨床学実習 III	必	5	4	1	犬			12	無
小動物病院実習	必	5	14	2	犬・猫			20	有
大動物総合臨床学実習 I	必	5	2	1			牛・馬	12	TA 1名
大動物総合臨床学実習 II	必	5	2	0.5			牛・馬	12	無
大動物総合臨床学実習 III	必	5	3	0.5			牛	12	無
大動物病院実習	必	5	7	1			牛・馬	20	TA 1名
小動物臨床実習・演習	選	6	14	1	犬・猫			20	無
大動物臨床実習・演習	選	6	7	1			牛・馬	20	無

[日本獣医生命科学大学]

実習科目名	必修・選択	開講年次	担当教員数	単位数	対象とする動物			班数・班当たり学生数	研修医・TAの有無
					主として伴侶動物	伴侶動物と産業動物	主として産業動物		
臨床基礎学	必	4	8	1			○	?	有
内科学	必	4	5	2			○	10班・8名	有
外科学	必	4	5	2			○	10班・8名	有
放射線学	必	4	3	1	○			10班・8名	無
臨床繁殖学	必	4,5	3	2			○	12班・7名	無
臨床病理学	必	4	2	1	○			10班・8名	有
総合臨床	必	5,6	18	8			○	10班・8名	有
野生動物学	選	5	2	1			○	8班・5名	有
学外実習	選	5,6	5	1			○		

[麻布大学]

実習科目名	必修・選択	開講年次	担当教員数	単位数	対象とする動物			班数・班当たり学生数	研修医・TAの有無
					主として伴侶動物	伴侶動物と産業動物	主として産業動物		
獣医内科学実習	必	5	8	1			○	2班・75名	無
獣医外科学実習	必	5	6	1			○	2班・75名	無
獣医放射線学実習	必	5	3	1	○			2班・75名	無
小動物臨床実習	必	5	17	3	○			4班・38名	有
小動物病院実習	自由	6	13	2	○			実習内容による	有
産業動物臨床実習	必	5	10	1			○	32班・4~5名	無
産業動物臨床基礎実習	選	1	11 (2)	1			○	26班・5名	無
獣医臨床繁殖学実習	必	5	2	1			○	2~32班・5~75名	無

※ () は含む学外講師数

麻布大学の場合、班をさらに小班4-5名に分け実施。また産業動物臨床基礎実習は1年次で開講しており、11人の担当教員の下、朝、昼、晩の産業動物の飼養管理を通して、動物を飼うことの難しさ、楽しさを体得させており、学生からの評判の高い実習のひとつである。

[日本大学]

実習科目名	必修・選択	開講年次	担当教員数	単位数	対象とする動物			班数・班当たり学生数	研修医・TAの有無
					主として伴侶動物	伴侶動物と産業動物	主として産業動物		
獣医内科学実習	必	4	3	1	○			16 班・9～10 名	TA2 名
獣医外科学実習 A	必	4	5	1	○			16 班・9 人	TA 1 名
獣医外科学実習 B	必	5	5	1	○	○		16 班・9 人	TA 1 名
獣医臨床繁殖学実習	必	4	2	1		○		20 班・7～8 名	TA 1 名
獣医放射線学実習	必	5	3	1	○			16 班・各 8 人	無し
産業動物臨床実習	必	5	2	1			○	20 班・7～8 名	TA 1 名
臨床獣医学実習 (うち病院ローテーション)	必	5	22	6 (4)		○		12 班・11～12 名	TA 1 名
臨床獣医学実習 (内科前期)	必	5	(3)	(1)		○		16 班・9～10 名	TA2 名
臨床獣医学実習 (臨床病理分前期)	必	5	(3)	(1)	犬、猫			12 班・6-7 名	TA 1 名

3-2-2. 臨床実習に非臨床系教員や TA、研修医、管理スタッフなどが参加している場合の具体的状況

酪農学園大学	<p>伴侶動物医療基礎実習 A、伴侶動物医療基礎実習 B および C については、大学院生がについては、大学院生が TA として参加している。</p> <p>伴侶動物医療臨床実習、クリニカルローテーション、アドバンスコース、病院実習専修コースについては、大学院生が TA として参加し、動物病院研修医も指導に参加を予定している。</p>
北里大学	<p>TA：実習の準備および補助、実習に対する質問などへの対応を行っている。また、出欠席の確認などを行っている。</p> <p>研修医：学生 2～3 名を割り当て、担当する学生に対して受け持ちの症例の概要、検査や治療法を説明し、一連の診療を見せながら指導をする。また、担当する学生に偏りがないように、毎日担当する学生を交代する。</p>
日本獣医生命科学大学	<p>臨床実習は、基本的には臨床系教員と臨床系教室に所属する大学院博士課程学生（TA として）が担当するが、必要に応じて非臨床系教員がバックアップすることもある（例：細菌感染症の患畜が担当となった場合、微生物学教室の教員が細菌の培養・同定等を指導）。</p>
麻布大学	<p>第一種特任教員：診療業務を行いながら、学生への説明など教育補助員の役割を果たしている。</p> <p>全科研修獣医師：全科の診療研修を行いながら、学生への説明など教育補助員の役割を果たしている。週 4 日以上。</p> <p>専科研修獣医師：所属診療科の診療研修を行いながら、学生への説明など教育にも協力している。週 1 日以上。</p> <p>動物管理スタッフ：主に産業動物の臨床実習に使用する家畜（牛及び入院畜）の飼育管理、牛舎の清掃、搾乳などを行っているが、臨床実習時にサポートを担当する場合がある。</p>
日本大学	<p>獣医臨床繁殖学実習および産業動物臨床実習においては、直腸検査等繁殖技術に熟練した大学院生 1 名が TA として参加している。実習の際には、TA が教員とともに学生からの質疑応答、技術指導を行っている。</p> <p>獣医内科学実習においては TA2 名が実習の補助として参加している。内科学的な検査や処置について、教員とともに指導を行っている。</p> <p>臨床獣医学実習（内科前期）においては牛および犬を用いた内科学的な検査や処置、診察について、教員とともに指導を行っている。</p> <p>臨床獣医学実習（臨床病理分前期）：プリントの配布、器材の運搬と納入、出席の確認、学生への指導を行っている。</p> <p>外科学実習 A, B：獣医師免許を持った大学院生 1 名が獣医外科学実習の補助を行っている。実技指導、出欠確認などを主に行っている。</p>

3-2-3. 選択実習科目の人数などに制限が設けられている場合の学生の選考方法

酪農学園大学	<ul style="list-style-type: none"> ・病院実習専修コースについても、選択者全員を受入れる予定である。 ・クリニカルローテーションおよびアドバンスコースについても、4年前期に学生主体で話し合いを持ち、5 教育群への所属を決定させ（成績優秀者30名には優先選択権を与える予定）、伴侶動物医療教育群所属学生（定員：教員数×3名、2010年度33名）を対象に実施する予定である。 アドバンスコースに関しては、伴侶動物医療教育群所属決定2ヶ月後までに学生主体の話し合いで所属診療科を決定する（各診療科の所属定員：教員数×3名までとする予定）。 ・選択は病院実習だけであるが、制限はない。
北里大学	人数制限なし
日本獣医生命科学大学	海外臨床実習では、英会話能力に富む学生を選抜している。
麻布大学	人数制限なし
日本大学	人数制限などは行っていない

3-2-4. 臨床実習における達成目標と達成度評価、成績評価方法について

[酪農学園大学]

<伴侶動物医療基礎実習 A>

到達目標：実際に動物を使用して、動物の保定、鎮静、全身麻酔、局所麻酔、輸液、麻酔管理、心肺蘇生の基礎、X線撮影、およびX線写真読影の実際を学び、その技術を修得する。

- ・ 動物を保定できる
- ・ 動物に輸液できる
- ・ 犬を全身麻酔し、気管挿管して人工呼吸を実施できる
- ・ X線撮影し、基本的な読影ができる

達成度および成績評価：臨床技能試験（50%）、定期試験（50%）

<伴侶動物医療基礎実習 B>

到達目標：伴侶動物医療に必要な内科系の検査法、診断法について学び、実践する。

- ・ 伴侶動物の診察、検査を行なう上で必要な基本的事項について理論的根拠を理解する。
- ・ 伴侶動物の診察、検査および治療を行なう上で必要な手技を習得する。

達成度および成績評価：臨床技能試験（50%）、定期試験（50%）

<伴侶動物医療基礎実習 C>

到達目標：伴侶動物の外科診療を実施する上で必要な基本的事項について手技およびその理論を習得する。

1. 伴侶動物の外科手術治療を行なう上で必要な基本的手技についてその理論的根拠を理解する。
2. 伴侶動物の外科手術治療を行なう上で必要な手技を習得する。

達成度および成績評価：臨床技能試験（50%）、定期試験（50%）

<伴侶動物医療臨床実習>

到達目標：附属動物病院に来院した症例を題材にする。内科系では問診、検査、診断、治療方針の計画、治療効果の判定について習得する。外科系では症例の概要、治療計画と手術法、術後管理について習得する。画像診断科で症例の概要、画像診断の方法、読影について習得する。麻酔科で症例の概要、麻酔計画と麻酔法、麻酔管理、術後疼痛管理について習得する。

1. 伴侶動物の診察、検査および治療を行なう上で必要な基本的事項について理論的根拠を理解する。
2. 伴侶動物の診察、検査および治療を行なう上で必要な手技を習得する。

達成度および成績評価：診療実習レポート（50%）、臨床技能試験（50%）

<伴侶動物医療専修コース：クリニカルローテーション>

到達目標：附属動物病院における診療活動と飼い主とのコミュニケーションを通して、臨床獣医師として伴侶動物臨床全般に要求される問題解決能力を広く養う。

- ・ 飼い主に問診ができる
- ・ 診断計画を立てることができる
- ・ 検査所見から鑑別診断ができる
- ・ 治療計画を立てることができる

達成度および成績評価：受講態度、および治療計画書/報告書などの作成状況

<伴侶動物医療専修コース：アドバンスコース>

到達目標：附属動物病院における特定診療科の診療活動に半年間参加することを通して、その分野における臨床獣医師としての専門的問題解決能力を養う。

- ・ 各分野における専門的事項を説明できる
- ・ 各分野における治療計画を立てることができる
- ・ 研究論文を完成する
- ・ 犬猫の避妊手術・去勢手術ができる

<病院実習専修コース>

到達目標：生産動物医療専修コースまたは伴侶動物医療専修コースで実施されているクリニカルローテーションに参加し、附属動物病院における診療活動と飼い主とのコミュニケーションを通して、臨床獣医師として要求される問題解決能力を養う。

- ・ 飼い主に問診ができる
- ・ 診断計画を立てることができる
- ・ 検査所見から鑑別診断ができる
- ・ 治療計画を立てることができる

達成度および成績評価：受講態度、および治療計画書/報告書などの作成状況で総合的に成績評価する

- ・ 達成目標は科目ごとに担当教員が責を負っている。成績はペーパー試験によって評価している。

[北里大学]

達成目標：臨床現場における一般的な疾患に対して診断、治療を実施するために必要な基本的な知識や手技を習得することを目標としている。なお、各科目においてさらに詳細な達成目標を掲げている場合もある。

例えば、獣医内科学実習では「一般的な内科診断の基礎となる診療のための動物の扱い法、主要な現症の取り方、身体検査の方法を理解し体得するとともに、一般的内科療法における薬物投与法を習得する。さらに、内科診断学で最も一般的な血液の検査法を習得し、その検査材料の採材・処理方法、検査データの臨床病理学的解釈について重点的に理解体得することを目標とする」

達成度評価：各科目において掲げられた目標を学生個人が理解して、診療に必要な診断、治療を実施できる知識や手技を習得することを通して臨床とは何かを深く理解する。

成績評価法：出席状況、レポート、定期試験の成績などを総合的に判断する。

[日本獣医生命科学大学]

動物の扱い方、聴診法、採血法、注射法などの基礎的な技術に習熟すること。

[麻布大学]

「目標」臨床現場の即戦力に近いレベルまで教育することは、現状ではほぼ不可能である。講義で学習した内容を、実際に動物を用いて観察、検査、診断、治療、病理解剖等実習することで臨床に関する姿勢と、基本的な診療技術を身につけさせる。

「達成度評価」診療技術については、臨床に関する基本的な事項について現場指導者からの指示が理解でき、具体的な診療技術に関して、学部生時代に身に付けた知識と技術を土台にして自ら研鑽を積む素養を備えていれば、学部の実習としては目標に達したものと評価する。

「成績評価方法」出席状況、実習態度、筆記試験の得点から総合評価。また報告書やレポートの作成、自由研究発表会や症例検討会での発表内容等も評価の対象となる。

[日本大学]

獣医放射線学実習

達成目標：放射線防護、各種エックス線撮影法、正常／異常エックス線像の読影について学ぶ

達成度評価：実地試験を実施する

成績評価法：出席、実習態度、実地試験

獣医内科学実習と臨床獣医学実習（内科前期）では、実習内容毎に内科学的なアプローチを訓練するためのレポート提出を課題としている。このレポート内容によって目的の達成度を評価している。成績評価は出席とレポートおよび試験の総合評価としている。

臨床獣医学実習（臨床病理分前期）

○出席を重要視（出席点 60 点）する。

内容：受講者全員の学習ノート、当該講義の記録（採録を指示済）を確認、達成度を評価し理解度に応じ、学習方向を指導している。

○試験

実習内容に対し、学期末試験を実施している（40 点）。

双方の得点とを以て、最終成績としている。

獣医外科学実習 A では外科手術学に必要な鎮静、麻酔法、無菌手術法、各種診断法を段階的に体得させたい。また、実際の獣医外科手術の実技を行い、手術学の基本的手技を習得することを目的としており、獣医外科学実習 B では小動物に加えて大動物の外科手術手技を実践させ、獣医外科臨床への応用力を習得することを目的としている。いずれも達成度評価および成績評価には試験 80%とレポート 20%による総合評価を行っている。

3-2-5. 講義と実習との関連性についての留意点

酪農学園大学	<p>できるだけ内容が一致するように講義を先行させ、これに実習を連動させる。</p> <p>現在のカリキュラムでは関連性を計ることは困難になっている。</p>
北里大学	<p>講義は午前に、実習は午後に時間割が配当されており、全ての科目ではないが講義内容が実習に反映されるように考慮されている。</p>
日本獣医生命科学大学	<p>講義を先行させて、十分な説明を実施してから実習を行うよう、努めている。</p>
麻布大学	<p>実習は講義内容の確認であるので、基本的には演習前に座学を実施する基本形態にしている。座学・演習・実習が組み合わさることにより、学習効果と興味が高まることを期待している。また、自由課題としてグループに分け学生間で議論させ、学修する中での疑問点や症例を主体とした独自学修を課し、ppt を用いた発表会を行うことで、実習の集約効果を狙っている。</p>
日本大学	<p>放射線学実習では、すでに講義済みのものであっても、重要項目については復習を兼ねて再度実地方式で再教育を行っている。</p> <p>獣医内科学実習と臨床獣医学実習（内科前期）では、講義では疾患の病態、診断、治療を中心に解説を行い、実習では実際の臨床現場で疾患を診断、治療する際に必要とされる手技や検査所見の見方、検査結果からの判断する能力を養う実習としている。</p> <p>臨床獣医学実習では、講義済みの内容について、血液塗抹標本の観察、尿検査の手技、皮膚病理組織標本の観察、真菌の形態観察などで修得させる等、臨床検査学の講義内容と実地手技との一致に留意している。</p> <p>外科学実習では、実習でカバーする領域に関しては実習前に実施する座学に移行し、その分講義の配分を軽減している。講義と実習を合わせて獣医外科学の基礎的事項を習得してもらうことを心がけている。</p>

4. 臨床実習に関わる実習施設

4-1. 臨床実習で主として使用している実習室、施設とその用途

[酪農学園大学]

実習室、施設名	実習科目名	主な対象動物	収容学生人数
獣医4号館 第6実験室 (V41)	伴侶動物医療基礎実習A～C	犬	70
獣医4号館 小動物手術実習室	伴侶動物医療基礎実習A	犬	70
臨床講義棟 臨床講義室	伴侶動物医療基礎実習A～C	犬	70
臨床講義棟 大動物実習室	伴侶動物医療基礎実習A	牛	70
動物病院 診療施設 ・診療室 ・麻酔導入回復室 ・手術室1-4 ・画像診断エリア ・入院室 ・会議室	伴侶動物医療臨床実習、クリニカルローテーション、アドバンスコース、病院実習専修コース	犬、猫、その他	
臨床実習室・ 大動物診療室	総合臨床学実習Ⅱ	牛	70
	総合臨床学実習Ⅳ	牛	70
	総合臨床学実習Ⅴ	牛	70
附属農場・コンピュータ室	総合臨床学実Ⅶ	牛	70

[北里大学]

実習室、施設名	実習科目名	主な対象動物	収容学生人数	備考
小動物臨床実習室	獣医内科学実習、獣医外科学実習、獣医臨床病理学実習、獣医臨床放射線学実習、画像診断学実習、麻酔学・救急医療学実習、小動物総合臨床学実習 I・II・III	犬	150	動物を用いた実習
1011 実習室	獣医臨床病理学実習、獣医外科学実習、小動物総合臨床学実習 I・II・III、獣医繁殖学実習、		150	血液などの生体材料を用いた実習
第2 大動物実習棟	獣医繁殖学実習、大動物総合臨床学実習 I、大動物総合臨床学実習 III	牛	75	動物を用いた実習
大動物診療室	獣医繁殖学実習、大動物総合臨床学実習 I・II・III、大動物病院実習	牛・馬	150	動物を用いた実習
大動物手術室	大動物総合臨床学実習 II、大動物病院実習	牛・馬	75	動物を用いた実習
614 実習室	獣医臨床放射線学実習、画像診断学実習		150	X線フィルム、測定機器を用いた実習
臨床教育・研究支援小動物施設	獣医内科学実習、獣医外科学実習、獣医臨床病理学実習、獣医臨床放射線学実習、画像診断学実習、麻酔学・救急医療学実習、小動物総合臨床学実習 I・II・III	犬		実習に使用する犬の飼育管理施設

[日本獣医生命科学大学]

実習室、施設名	実習科目名	主な対象動物	収容学生人数
小動物臨床	獣医外科学実習 獣医内科学実習 獣医放射線学実習 獣医臨床繁殖学実習 獣医臨床病理学実習 獣医総合実習（臨床）	犬、猫	50
産業動物臨床	獣医外科学実習 獣医内科学実習 獣医臨床繁殖学実習 獣医総合実習（臨床）	牛	50
動物医療センター	獣医外科学実習 獣医内科学実習 獣医放射線学実習 獣医臨床病理学実習 獣医臨床繁殖学実習	犬、猫	80
内科系実習室	獣医内科学実習 獣医臨床病理学実習 獣医臨床繁殖学実習	犬、猫	50

[麻布大学]

実習室、施設名	実習科目名	主として対象とする動物	収容学生人数
獣医臨床センター 実習室1	獣医内科学実習 獣医臨床繁殖学実習	臨床病理検査	80
獣医臨床センター 実習室3	獣医内科学実習 獣医外科学実習 獣医放射線学実習 獣医繁殖学実習 小動物臨床実習	犬	80
獣医学部棟 301 実習室	獣医内科学実習	臨床病理検査	80
5号館 5106 実習室	獣医内科学実習 獣医外科学実習 獣医臨床繁殖学実習	牛・豚	80
牛舎	獣医臨床繁殖学実習	牛	40
5号館 一般実習室	産業動物臨床基礎実習 獣医臨床繁殖学実習	牛	80
学内畜舎	産業動物臨床基礎実習	牛・豚・馬	40
5号館、 産業動物用実習室	産業動物臨床基礎実習 産業動物臨床実習 獣医臨床繁殖学実習	牛・豚	80

[日本大学]

実習室、施設名	実習科目名	主な対象動物	収容学生人数	
画像診断実習室	獣医放射線学実習	犬	16	撮影実習
小動物臨床講義室	獣医放射線学実習	なし	80	読影実習
大動物臨床棟	獣医臨床繁殖学実習 産業動物臨床実習	牛・犬	40	
実習牛舎	獣医臨床繁殖学実習 産業動物臨床実習	牛	40	
小動物内科実習室	獣医内科学実習 臨床獣医学実習（内科 前期）	犬	80	
牛舎	臨床獣医学実習（内科 前期）	牛	80	
6号館 631 実習室	臨床獣医学実習（臨床 病理分）	犬、猫	70-75	標本の観察
小動物外科実習室	獣医外科学実習 A およ び B	犬	80名	
大動物臨床棟	獣医外科学実習 B	犬および牛	80名	

4-2. 臨床実習に関わる実習用機器

[酪農学園大学]

実習科目名	実習用機器名	用途	台数など	備考
伴侶動物医療基礎 実習 A	吸入麻酔器	麻酔実習	10	
	犬のぬいぐるみ	保定練習	10	
	液晶プロジェクター	スライド映写	1	
	動物病院の診断機材 (X 線撮影装置) 流用	画像診断実習		
伴侶動物医療基礎 実習 B	液晶プロジェクター	スライド映写	1	
	単眼顕微鏡	血液検実習	10	
	パンチ生検セット	皮膚検査実習	20	
	動物病院の診断機材 (血液検査機器、眼科 検査) 流用	皮膚検査実習 血液検査実習 眼下検査実習		
伴侶動物医療基礎 実習 C	液晶プロジェクター	スライド映写	1	
	縫合練習用ダイジー	縫合練習	240	
	縫合器具セット	縫合練習	100	
	整形外科器具セット	骨折整復ドライ ラボ	10	
伴侶動物医療臨床 実習	液晶プロジェクター 動物病院の診療機材を 流用	スライド映写	1	
伴侶動物医療専修 コース：クリニカ ルローテーション	37型液晶モニター 動物病院の診療機材を 流用	PCデータの表示 臨床実習	2	2012年度開講
伴侶動物医療専修 コース：アドバン スコース	37型液晶モニター 動物病院の診療機材を 流用	PCデータの表示 臨床実習	2	2013年度開講
病院実習専修コー ス	37型液晶モニター 動物病院の診療機材を 流用	PCデータの表示 臨床実習	2	2012年度開講
総合臨床学実習 Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	超音波装置	臨床診断	3	
総合臨床学実習 Ⅱ・Ⅴ	顕微鏡	臨床検査・卵検 査	70	
総合臨床学実Ⅶ	コンピ [°] ユータ	牛群診断		

[北里大学]

実習科目名	実習用機器名	用途	台数など
獣医外科学実習	吸入麻酔装置	麻酔・手術実習	12
獣医外科学実習	麻酔モニター	麻酔・手術実習	12
獣医内科学実習	心音・心電計	心電図検査	6
獣医内科学実習	分光光度計	生化学検査	2
獣医臨床病理学実習	顕微鏡	血液塗抹観察	150
大動物総合獣医学実習 II	移動式手術台	手術実習	1
大動物総合獣医学実習 I・II	簡易保定柵場	保定	3
獣医臨床放射線学	GM 計数管	測定実習	16
獣医臨床放射線学	計数装置	測定実習	16
獣医臨床放射線学	密封ベータ線源	測定実習	32
獣医画像診断学実習	シャウカステン	X 線読影実習	40

[日本獣医生命科学大学]

実習科目名	実習用機器名	用途	台数など
獣医外科学実習	手術台、吸入麻酔器、無影灯等	手術の練習	各 8
獣医放射線学実習	X 線撮影装置、シャウカステン、自動現像機等	撮影の練習, 読影	3~5
獣医外科学実習 獣医内科学実習 獣医臨床繁殖学実習	柵場等	牛の臨床実習	5
獣医内科学実習 獣医臨床病理学実習	顕微鏡、血液生化学分析機器等	血液, 精子, 卵子の観察	顕微鏡 80 分析器 5

[麻布大学]

実習科目名	実習用機器名	用途	台数など
獣医内科学実習 獣医臨床繁殖学実習	光学顕微鏡	臨床病理検査	80
獣医外科学実習	吸入麻酔装置 無影灯	麻酔・手術 手術	8 7
獣医放射線学実習	X 線撮影装置 超音波診断装置	犬の X 診断 犬の超音波診断	5 10
産業動物臨床実習	大型レントゲン撮影装置 超音波画像診断装置 内視鏡 吸入麻酔器	骨や軟部組織の観察 吸入麻酔	各 1
産業動物臨床基礎実習	血液成分検査機器	遠心分離、血球と血漿成分の測定	1

[日本大学]

実習科目名	実習用機器名	用途	台数など	その他
獣医放射線学実習	エックス線撮影装置	エックス線撮影	1	
獣医放射線学実習	シャウカステン	エックス線読影	16	
獣医内科学実習	超音波診断装置	超音波検査	8	半数以上を借用
獣医内科学実習	内視鏡	内視鏡検査	1	
獣医内科学実習	眼底鏡/耳鏡	眼底・耳道検査	8	
獣医内科学実習	眼圧計・スリットランプ	眼科検査	1	
臨床獣医学実習（臨床病理）	顕微鏡（油浸系付）	標本の観察	80	
獣医外科学実習 A	小動物用吸入麻酔器	麻酔	10	

4-3-1 臨床実習で使用する動物種と頭数

[酪農学園大学]

実習科目名	動物種名	用途	頭数
伴侶動物医療基礎実習 A	犬	麻酔実習	20
	犬	画像診断実習	2
伴侶動物医療基礎実習 B	犬	身体検査実習、血液検査実習	10
	犬	眼科検査実習	10
	犬	皮膚検査実習	10
伴侶動物医療基礎実習 C	犬	神経学的検査実習	10
伴侶動物医療臨床実習	犬、猫、その他	実習動物は使用しない 臨床例	
伴侶動物医療専修コース：クリニカルローテーション	犬、猫、その他	実習動物は使用しない 臨床例	
伴侶動物医療専修コース：アドバンスコース	犬、猫、その他	実習動物は使用しない 臨床例	
病院実習専修コース	犬、猫、その他	実習動物は使用しない 臨床例	
総合臨床学実習 II・IV・IV	牛馬	診断検査・治療技術実習	10
総合臨床学実VII	牛	診断検査	40 (附属農場牛)

[北里大学]

実習科目名	動物種名	用途	頭数
獣医内科学実習	犬	保定、聴診、触診、採血、注射など	12
獣医外科学実習	犬	麻酔、手術など	12
小動物総合臨床学実習 I・II・III	犬	各臓器の機能検査、手術など	24
獣医臨床病理学実習	犬	血液検査、機能検査	10
獣医画像診断学実習	犬	X線、超音波撮影実習	5
獣医繁殖学実習	牛	直腸検査、性周期判定	14
大動物総合獣医学実習 I	牛、馬	各臓器の機能検査など	40
大動物総合獣医学実習 II	牛、馬、めん羊、豚	保定、鎮静、麻酔、手術など	40
大動物総合獣医学実習 III	牛	人工受精、胚移植など	14

[日本獣医生命科学大学]

実習科目名	動物種名	用途	頭数
内科、外科、繁殖	牛	牛の臨床実習	18
内科, 外科, 放射線, 繁殖	犬	小動物臨床実習	30
内科, 臨床病理, 繁殖	猫	小動物臨床実習	5

[麻布大学]

実習科目名	動物種名	用途	頭数	
獣医内科学実習	犬 牛 豚	採材、診断検査、処置	28 7 7(母豚 15(子豚	実習1回あたりの頭数
獣医外科学実習	犬	手術	10	実習1回あたりの頭数
獣医臨床繁殖学実習	牛 犬 ラット	直腸検査、乳房炎検査、精液採取、膣垢採取	8 7 50	実習1回あたりの頭数
獣医放射線学実習	犬	画像診断検査	16	実習1回あたりの頭数
産業動物臨床実習	牛	病気の診断、治療	40	入院牛主体
産業動物臨床基礎実習	牛 豚 馬	生体検査、管理、治療、生体解説、分娩時処置	40 40	入院牛主体 成豚10 子豚30

[日本大学]

実習科目名	動物種名	用途	頭数	
獣医放射線学実習	イヌ	エックス線撮影法を学ぶため	8	
獣医臨床繁殖学実習	牛	直腸検査、人工授精	5	延べ頭数は40
獣医臨床繁殖学実習	犬	膣スミア、精液採取	10	延べ頭数は40
産業動物臨床実習	牛	子宮洗浄、胚移植、乳房炎治療、難産救助	5	延べ頭数は44
臨床獣医学実習	牛	直腸検査、採血、胃汁採取、削蹄等	10	
獣医内科学実習	犬	内科学検査	8	延べ頭数は16
臨床獣医学実習（内科前期）	牛	内科学検査	2	延べ頭数は4
臨床獣医学実習（内科前期）	犬	内科学検査	8	延べ頭数は16
獣医外科学実習 A	犬	麻酔、軟部組織外科実習	16	軟部組織外科実習直後に安楽死
獣医外科学実習 B	犬	整形外科実習、神経外科実習	16	上記の安楽死した犬をそのまま継続使用
獣医外科学実習 B	牛	第四胃変位整復術、第一胃切開術	2	

4-3-2 臨床実習で使用した動物の実習終了後の動物の処置について

[酪農学園大学]

実習科目名	動物種名	処置法
伴侶動物医療基礎実習 A	犬	伴侶動物医療教育群にて実習犬として 8-9 歳まで飼養管理を継続
伴侶動物医療基礎実習 B	犬	伴侶動物医療教育群にて実習犬として 8-9 歳まで飼養管理を継続
伴侶動物医療基礎実習 C	犬	伴侶動物医療教育群にて実習犬として 8-9 歳まで飼養管理を継続
伴侶動物医療臨床実習	犬、猫、その他	臨床例であり、飼い主が飼養管理継続
伴侶動物医療専修コース：クリニカルローテーション	犬、猫、その他	臨床例であり、飼い主が飼養管理継続
伴侶動物医療専修コース：アドバンスコース	犬、猫、その他	臨床例であり、飼い主が飼養管理継続
病院実習専修コース	犬、猫、その他	臨床例であり、飼い主が飼養管理継続
総合臨床学実習Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ	牛	安楽殺処分
総合臨床学実Ⅶ	牛	ナシ

[北里大学]

実習科目名	動物種名	処置法
獣医外科学実習、小動物総合臨床学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	犬	麻酔薬の多量投与による安楽死
獣医繁殖学実習	牛	売却
大動物総合獣医学実習Ⅱ	牛、馬、めん羊、豚	断角・去勢などは飼育または譲渡、開腹手術実習の牛は安楽死後に病理解剖
獣医画像診断学実習、獣医内科実習、獣医臨床病理学実習	犬	継続飼育

[日本獣医生命科学大学]

実習科目名	動物種名	処置法
獣医外科学実習 獣医内科学実習 獣医臨床繁殖学実習	牛	食肉センターに出荷
獣医外科学実習 獣医内科学実習 獣医放射線学実習	犬	実習に再度利用または安楽死
獣医内科学実習 獣医臨床病理学実習 獣医臨床繁殖学実習	猫	実習に再利用

[麻布大学]

実習科目名	動物種名	処置法
獣医内科学	犬、牛、豚	殺処分
獣医放射線学実習	犬	殺処分
獣医外科学実習	犬	殺処分
産業動物臨床基礎実習	牛 豚 馬	退院、病理解剖、学用 他の実習に使用 馬術部繋養
産業動物臨床実習	牛	退院、病理解剖、学用 牛舎に繋養

[日本大学]

実習科目名	動物種名	処置法
放射線学実習	イヌ	侵襲性が高い実習は行っていないことから、実習終了後、約1時間経過観察し、犬舎にもどしている。
獣医臨床繁殖学実習	牛	実習終了後も継続飼養
獣医臨床繁殖学実習	犬	実習終了後も継続飼養
獣医内科学実習	犬	継続飼養
臨床獣医学実習（内科前期）	牛	継続飼養
臨床獣医学実習（内科前期）	犬	継続飼養
獣医外科学実習 A	犬	軟部組織外科実習終了直後、麻酔から覚醒させずに吸入麻酔下にて塩化カリウム液静脈内投与による安楽死。獣医外科学実習 B ではその死体を使用して手術手技実習を実施する。

4-3-3 実習用動物の経費について

酪農学園大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習犬に関しては、伴侶動物医療教育群でビーグル犬 25 頭を飼養管理しており、その飼養管理や実習犬の新規購入に関する予算は伴侶動物医療教育群の実験実習費を用いている。 ・ 実習犬を係留している飼育施設は獣医学部共通施設として運営されており、施設備品等に関しては、状況に応じて獣医学科予算あるいは受益者負担として支出されている。ちなみに、平成 21 年度には獣医学科の予算（約 700 万円）を投じて犬用ケージの入れ替えを実施した。 ・ 実習体経費として予算化されている。この経費は解剖学実習などに使用する動物の費用も含まれている。飼料、敷料などの購入費を含めて年間約 350-450 万円。
北里大学	臨床動物費として 500 万円が学部予算として計上されている。小動物および大動物で半分に分け動物の購入および維持管理のために使用されている。
日本獣医生命科学大学	<ol style="list-style-type: none"> 1) 産業動物実習経費 820 万円 2) 総合臨床実習経費 140 万円 3) 実習犬購入費 470 万円
麻布大学	<p>主に産業動物臨床実習に用いる牛の購入及び飼育経費、また実習全般において使用する犬についてはビーグル犬に限り、それぞれ実習費の他に予算化されている。その他の実習用動物はその手配と管理における費用は、実習の単位数に応じて各講座に一律配分される実習予算で賄う。</p> <p>実習用ビーグル犬購入費 585 万円 臨床大動物管理費 240 万円などである。</p>
日本大学	毎年 500 万円が動物費として予算化され、犬、牛、豚の購入、飼料代、運搬の経費に使用している。平成 22 年度のビーグル犬購入実績は 189 万円である。ビーグル犬を飼養する場合は、1 頭、1 年間、1 ケージにつき、¥10,000 の使用料が徴収される。

4-4 臨床ラウンド実習の実施状況について

[酪農学園大学]

本学附属動物病院の臨床例を利用した実習（模擬診療も含む）は、以下の科目で実施している。このうち、斉一教育で実施しているのは、02 カリ-総合臨床学実習 VIII および 08 カリ-伴侶動物医療臨床実習であり、いずれの科目も実際に動物病院に来院受診した臨床例の診療データを活用した模擬診療を主体とし、一部手術見学もある。現在、ローテーションの対象となる診療科は、内科、眼科、外科、腫瘍科、画像診断科、および麻酔科の6診療科である。

実習科目名	班数	班当たり対学生数	担当教員数	診療補助スタッフ数*	具体的内容（時間数、診療科数、学生当たり時間数など）
伴侶動物医療臨床実習	7班×2クラス	8-10名	11	2010年度は大学院生8名、研修医11名	週1回の14回の実習で6診療科を2回ずつローテーション（内科は4回）。1回の実習時間は約6時間。多くは、臨床例を用いた模擬診療。一部手術見学。
伴侶動物医療専修コース：クリニカルローテーション	7班	4-5名	11	2010年度は大学院生8名、研修医11名	伴侶動物医療教育群に所属した学生を対象に実施する。1診療科あたり2週間の診療活動に参加し、6診療科をローテーションする。
伴侶動物医療専修コース：アドバンスコース	7班	3-6名	11	2010年度は大学院生8名、研修医11名	伴侶動物医療教育群に所属した学生を対象に実施する。あらかじめ決定した所属診療科で15週間診療活動および研究活動に参加する。臨床研究等の研究成果を論文形式で提出し、口頭発表する。
病院実習専修コース	応募人数による	3-5名	11	2010年度は大学院生8名、研修医11名	集中講義として夏期または春期休業期間に実施。選択した1診療科について2週間の診療活動に参加する。
病院実習		3~5	8	0	診療科数4

*TA や研修医等

[北里大学]

実習科目名	班数	班当たり対学生数	担当教員数	診療補助スタッフ数*	具体的内容（時間数、診療科数、学生当たり時間数など）
小動物病院実習	7	20	14	5	20人を1班として7班を編成し、各班午前3コマ、午後3コマの2週間の実習を行う。各班を2～3名のグループに分け、教員および研修医に振り分ける。診療科数は大きく5つに分かれており、学生は各診療科を1週間で一回りする。
大動物病院実習	7	20	7	1	20人を1班として7班を編成し、各班午前3コマ、午後3コマの1週間の実習を行う。診療科数は大きく3つに分かれており、学生は各診療科を1週間で一回りする。

* TA や研修医等

[日本獣医生命科学大学]

実習科目名	班数	班当たり対学生数	担当教員数	診療補助スタッフ数*	具体的内容（時間数、診療科数、学生当たり時間数など）
産業動物実習	10	8, 9	8	6	90 時間
動物医療センター	10	8, 9	8	4	225 時間
個人の小動物病院	無		無	無	45 時間

* TA や研修医等

[麻布大学]

実習科目名	班数	班当たり対学生数	担当教員数	診療補助スタッフ数*	具体的内容（時間数、診療科数、学生当たり時間数など）
小動物臨床実習	48 班	3 名	20**	17 名***	9 診療科で実施。午前 3 時間、午後 4 時間 臨床基礎実習 5 日および 病院実習 15 日が実習となる
産業動物臨床実習	32 班	4～5 名	6	4 人程度	5 日間にわたり 1 症例を担当。診療時間は午前 4 時間、午後 4 時間。

* TA や研修医等

** 獣医臨床系教員、動物病院専任教員、特任教員

*** 全科研修医、薬剤担当獣医師、動物看護師、検査技師

[日本大学]

実習科目名	班数	班当たり対学生数	担当教員数	診療補助スタッフ数*	具体的内容（時間数、診療科数、学生当たり時間数など）
臨床獣医学実習	12	11～12	22	32+1	以下の6診療科を各1週間
外科診療科	1班を4グループに		5	11	週4日、8時間/日、軟部組織外科、整形外科、神経外科
内科診療科			3	6	週4日、8時間/日、循環器科、消化器科、眼科
放射線科			3	5	週4日、8時間/日、放射線診断、放射線治療
臨床検査科・皮膚科			3	1	週3日、8時間/日、臨床検査、皮膚科
産科・繁殖科			2	TA 1	週3日、8時間/日、小動物の産科、産業動物の繁殖科
総合診療科	1班を3グループに	1グループ4人	6	9	週4日、8時間/日、神経科、呼吸器科、歯科、消化器科、血液科、一般内科

* TA や研修医等

4-5-1. 動物病院における年間症例数と学用患畜(平成 21 年度実績)

[酪農学園大学]

産業動物	ウマ	ウシ	ブタ	緬山羊	その他	小計
学用患畜頭数	5	388	-	1	-	394
患畜頭数	25	8926	3	267	36	9257
伴侶動物	イヌ	ネコ	その他	小計		
学用患畜頭数	-	-	-			
患畜頭数	9906	925	-	10831		

[北里大学]

産業動物	ウマ	ウシ	ブタ	緬山羊	その他	小計
学用患畜頭数	1	3741	0	0	0	3742
患畜頭数	78	1661	9	54	0	1802
伴侶動物	イヌ	ネコ	その他	小計		
学用患畜頭数	96	0	0	96		
患畜頭数	7102	992	10	8104		

[日本獣医生命科学大学]

産業動物	ウマ	ウシ	ブタ	緬山羊	その他	小計
学用患畜頭数						
患畜頭数						
伴侶動物	イヌ	ネコ	その他	小計		
学用患畜頭数	無	無				
患畜頭数	7500	1400		8900		

[麻布大学]

産業動物	ウマ	ウシ	ブタ	緬山羊	その他	小計
学用患畜頭数	0	1530	0	3	0	1533
患畜頭数	0	0	6306	3	0	7839
伴侶動物	イヌ	ネコ	その他	小計		
学用患畜頭数	631	90	26	747		
患畜頭数	12478	1664	31	14173		

[日本大学]

産業動物	ウマ	ウシ	ブタ	緬山羊	その他	小計
学用患畜頭数	1	9	0	0	0	10
患畜頭数	0	18	0	0	0	18
伴侶動物	イヌ	ネコ	その他	小計		
学用患畜頭数	3	0	0	3		
患畜頭数	13,339	2,072	2	15,413		

4-5-2 学用患畜の手続きについて

酪農学園大学	<p>現在附属動物病院では、学用患畜に関する予算立てをとっておらず、廃用畜となった牛や馬などの生産動物についてのみ、それぞれの教員がもらいうけその後の実習や研究に活用している。</p> <p>農家から提供の申し出のあった動物を学用患畜として使用している。特別な手続きは実施していないが、牛では動物所有者を大学に異動している。</p>
北里大学	<p>学用患畜の申請は、所定の申請用紙に症例の概略および申請理由を記載して動物病院に提出すると同時に、臨床系教職員に内容をメールにて周知する。</p>
日本獣医生命科学大学	<p>動物医療センター倫理委員会および動物医療センター運営委員会にて審議。</p>
麻布大学	<p>産業動物：原則としてすべての患畜を学用として扱っているため手続きは行わない。運搬に関する事務の取り扱いは動物管理センターが担当し、センターの専任職員が運搬業務に当たっている。</p> <p>伴侶動物：主治医が動物病院運営委員会に申請し、承認を受ける。</p>
日本大学	<p>主治医が学用患畜にふさわしい症例であると認め、飼い主の承諾が得られた後に、家畜病院運営委員会に提案し承認を得る</p>

4-5-3 症例を使用した実習等特色を有する臨床実習について

酪農学園大学	<p>前述のように、斉一教育で実施している臨床実習科目は、02 カリ-総合臨床学実習 VIII および 08 カリ-伴侶動物医療臨床実習であり、いずれの科目も実際に動物病院に来院受診した臨床例の診療データを活用した模擬診療を主体とし、一部手術見学を実施している。現在、ローテーションの対象となる診療科は、内科、眼科、外科、腫瘍科、画像診断科、および麻酔科の6診療科である。</p> <p>一方、伴侶動物医療教育群に所属した学生に関しては、02 カリ-獣医学演習または 08 カリ-伴侶動物医療専修コースのクリニカルローテーションおよびアドバンスコースにて、各診療科の診療活動に参加し、斉一教育の臨床実習よりも濃密な臨床実習を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の疾病を観察し、病畜を診察することができる ・子宮・卵巣、肢蹄などの部分遺体を用いて実習している ・症例診断と病理解剖をリンクして実施することもある ・附属農場の牛群を利用して牛群診断実習を実施している ・往診に随行して、疾病動物の診療実習を実施することによって、実際の農家やその飼養管理法に接することができる。
北里大学	<p>小動物の症例のみに偏ることなく、地域性を生かして牛や馬などの産業動物を臨床実習に利用できることで幅広い教育ができる。また、小動物診療では1次診療も行っているため、臨床現場で遭遇する機会の多い疾患から高度診療まで間近に接することができる特徴を有している。</p>
日本獣医生命科学大学	<p>5年次後期および6年次前期に実施している病院実習(1グループ3~4名)では、動物医療センターに紹介された患者を初診時の問診から臨床検査を初めとする各種検査の結果を基にした診療の進め方を臨床系助教、助手および研修医の指導のもと経験し、その結果をみることにより、一連の診療行為を体験する。多くの症例について、CTやMRIを使った診療を行うため、これらの高度医療機器を用いた先端医療の経験も一通り積むことができる。一連の診療結果の報告書(カルテ)を作成し、症例検討会にて、グループごとの発表を義務付けている。</p>
麻布大学	<p>産業動物：入院している動物を用いて五感による身体検査を行うと同時に、臨床病理学検査を実施し、疾病の診断を行う。診断に従って治療計画を立て、教員の監督指導のもとに治療を行い、診療記録をとる。外科症例においては、周術期の検査を行うとともに、実際の手術に立ち会う。不治の症例および斃死例は病理解剖を行い、病原・病態の解明を行う。最後に報告書を作成し、症例検討会にて発表し、症例の検討を行う。</p> <p>伴侶動物：特に行っていない。</p>
日本大学	<p>大学病院に紹介された患者の診療は初診時の問診から臨床検査や各種検査の診療の進め方を研修医と一緒に経験し、その結果を検討することにより、診療行為の疑似体験が可能となる。紹介症例であるため高度獣医療の現場に自らをおくことで、より臨床例への理解が深まる。必ずしも自身が注射をしたり採血をするという体験型実習に比べてより高度な経験が得られる場合が多い。</p>

4-6-1 農林水産省から通知のあった獣医学生の臨床実習についての実施条件整備状況について

酪農学園大学	<p>現在委員会を設置して検討中である。最初に生産動物医療教育群および伴侶動物医療教育群の現状について各教員にアンケートをとり、それぞれの結果から現状に合った基準を提案していただいている。</p> <p>獣医学生の臨床実習については農林水産省通知にしたがって実施条件整備中である。農林水産省要件にとくに問題は感じていない。</p>
北里大学	<p>現在、臨床系のカリキュラム委員により 12 月中旬を目処に農林水産省から出された基準を軸に内容を検討しているところである。</p>
日本獣医生命科学大学	<p>対応策について検討中。検討中の対応策は平成 23 年度から実施予定。</p>
麻布大学	<p>現時点では検討していない。</p>
日本大学	<p>4 項目の実施条件に関して、おおむねこの条件を満たした場合に参加型実習が許容されると考え、学内検討を行っている。</p> <p>なお、1) 侵襲性のそれほど高くないものはどこまでにするか。2) 指導教員として認められる一定の要件はどこまでにするか。3) 学生評価の方法をどのようにするか。単に所定の単位を修得していればよいか、あるいは試験を行った上で決めるべきかである。試験を行った場合、進級していても実習に参加できる学生と参加できない学生ができるため教育上の取り扱いに困難が生じる可能性がある。このため基準をクリアできていない学生の進級措置が課題である。4) 飼育動物の所有者の同意を得てから実施することは不可欠の要件である。今後、これらの課題を整理し方向性を見いだした上で学科内のコンセンサスを得る予定である。</p>

4-6-2 現在の参加型臨床実習の状況について

酪農学園大学	<p>伴侶動物医療教育群では、前身の外科学、外科学第二または内科学第二教室次代の 1995 年頃より、それぞれの担当斉一教科目の一部を利用して病院内での参加型実習を行なってきた。また、当時より以前から臨床系教室においては、教員の補助として当番制で診療に参加し、実学を研鑽してきた経緯がある。2004 年に新病院ができてからは、現行旧カリの中で斉一では総合臨床学実習 VIII (旧カリ必修、5 年後期)、選択では病院実習 (旧カリ選択、6 年集中)、教育群所属対象では学生演習 (旧カリ必修、4-6 年) において、教員など獣医師の監督下で問診や動物の保定、手術時の器具係など農水水準 1 程度の診療行為を行なってきた。</p> <p>生産動物医療教育群においても、学生演習 (旧カリ必修、4-6 年) において学内の入院畜や往診での治療の際に臨床教員に同行し、同様の実習を行なってきた。毎朝、入院動物の診断治療を 7:00~8:30 まで実施している。また常時、往診を実施しているので、往診随行の臨床実習も実施している。</p>
北里大学	<p>小動物病院実習では、動物の保定、検温、入院動物の管理 (給餌、ケージ内洗浄、散歩など)、経口薬の投与、手術時の器具係、血液検査の補助などを行っている。</p> <p>大動物病院実習では、飼い主の了解が得られた症例に対してのみ、注射、採血、簡単な外傷処置を担当教員の監督下で実施している。</p>
日本獣医生命科学大学	<p>採材された検査サンプル (血液、尿、組織、細胞等) の処理など。</p>
麻布大学	<p>産業動物：指導内容や手法についてのガイドラインを提示し、各種組織団体や開業獣医師等に示したうえで、その基準を踏まえて臨床実習を指導していただける獣医師 (学外臨床指導講師) を選定し、年度開始時には大学と契約を結ぶことが重要と思われる。その上で、学生の実習希望を加味し、臨床実習を実施する形態が必要である。</p> <p>現在、産業動物臨床実習では、入院家畜に対して治療計画を立てて、教員の監督指導のもとに経口投薬や注射などの処置を行う。外科症例においては、周術期の検査を行うとともに、実際の手術に立ち会い、助手を務める。以上のように、産業動物において従来から実施されてきた参加型臨床実習の現状内容を整理し、今後はシステム・手順をより明確に構築して実施することが必要である。</p> <p>伴侶動物：産業動物と比べて臨床の現場環境が異なっており、実施には至っていない。しかし伴侶動物の臨床現場領域の将来においては重要な課題であるため、産業動物と区分し検討することが必要と思われる。</p>
日本大学	<p>現在のローテーション実習では、学生は見学実習がほとんどである。状況により保定などを担うこともあるが、採血や注射、問診の聴取などは行っていない。なお、動物に危害を与えない聴診や検温、触診、心電図などは担当教員の判断で実施している。いずれにしても参加型臨床実習の条件整備については学科内</p>

	でのコンセンサスを得る予定である。
--	-------------------

4-7-1 学外での臨床実習の単位認定について

学外で臨床実習の単位認定基準（対象機関・期間・単位数）や成績評価の方法について

酪農学園大学	動物病院（伴侶動物、産業動物）農業共済組合など、学部主催の海外臨床実習 期間：1週間以上 単位数：1 単位認定：実習受け入れ先の評価ならびにレポート提出による総合評価
北里大学	対象機関：動物病院（小動物、産業動物）、農業共済組合、JRA トレーニングセンター 期間：休暇中の1～2週間 単位数：1週間で1単位、同じ所で2単位まで 成績評価：学生の指導報告書を実習先の指導責任者に依頼（出席状態と実習態度） 普通に実習を行えば基本的には85点（優）と判定
日本獣医生命科学大学	全国の農業共済連合会の診療所での実習： 2単位 個人経営の小動物病院実習： 1単位
麻布大学	専門学外実習（5年次・2単位・10日間）：対象機関は、伴侶動物および産業動物の診療施設、家畜保健所、動物検疫所、実験動物施設、民間企業、食肉衛生検査所、保健所、動物愛護センター、動物園、水族館などその活動に獣医師の資格が必要とされる学外の施設であればどの分野でも実習できる。ただし臨床系科目として分類されていない。 実習のレポートおよび報告会での発表内容を評価している。
日本大学	学外での臨床実習のうちで、小動物においては、一般の小動物診療施設で1～2週間、来院する実症例の診断、治療および予防を体験し動物病院における全般の診療の流れを学習する。単位数は1単位である。成績評価は、実習先で遭遇した症例をレポートにまとめて報告するとともに、実習先における実務評価で行う。 産業動物においては、NOSAI 全国が取り扱っている夏期臨床実習生受入家畜診療所において、1～2週間実習し単位数は1単位である。成績評価は、本人の臨床実習に関するアンケートおよび診療所長からの実習状況報告書、後日学内で行う発表会での成績に基づいて評価する。

4-7-2 支援体制などについて

学外での臨床実習の大学におけるその支援体制（実習先の紹介や事務組織の関与など）について

酪農学園大学	<p>実習先の紹介は教員によって随時行っている。 農業共済組合等の公的な臨床実習募集については事務部が担当している。</p>
北里大学	<p>支援体制：学生実習支援委員会を組織し、実習先の選定など相談を受け、アドバイスを与えている。担当教員はほぼ固定した状態。伴侶動物については紹介する場合もあるが、多くのケースは実習先の探し方や実習に際しての礼儀等の指導が中心。 事務組織：単位となる実習は教務課が実習依頼書の発送などの事務業務を担当 単位とならない実習（2，3年生）は学生課が同様な事務を担当</p>
日本獣医生命科学大学	<p>農業共済連合会の診療所での実習：診療所の紹介および宮城県・山形県に関しては、教員が各県に4，5名ずつ引率。 個人経営の小動物病院実習：原則ときには学生本人が見つけるが、自分で見つけられない学生については大学から病院を紹介。</p>
麻布大学	<p>「専門学外実習」において、実習先は学生が自ら探す決まりになっており、大学側からは紹介を行っていない。ただし困難な場合は、例えば過去の資料の閲覧機会を提供し、本人が具体性を持ち選択できるよう促すなど、教員が場合によっては手助けをすることもある。受入れ先への依頼手続き等はコーディネーターの教員と事務局の「学生部学生支援課」が協力して行っている。</p>
日本大学	<p>小動物に関しては、原則として学生自身が選定するが、他大学の動物病院を希望した場合は、実習先を紹介している。 産業動物に関しては、担当教員がNOSAI全国の夏期臨床実習生受入可能家畜診療所の中から本人の希望を勘案し、実習先を紹介している。 小動物、産業動物いずれの場合でも、担当教員が実習の依頼状や礼状、必要に応じて誓約書等の作成事務を行い、学部教務課の承認を経た後に実習先へ送付している。 さらに、単位認定以外の臨床実習の場合でも、学生の希望に応じて、小動物および産業動物診療施設を紹介し、また北海道NOSAIの主催するインターンシップや産業動物獣医師就業研修（家畜衛生対策推進協議会）などを紹介している。</p>

4-7-3 海外臨床実習について

海外での臨床実習、単位認定、成績評価の方法、教員の引率、現地での通訳など支援体制の状況について

酪農学園大学	<p>海外臨床実習は毎年実施されていて、希望者のみが参加することになっている。</p> <p>単位認定は学外実習の単位として認定している。</p> <p>実習先：オハイオ州立大学(伴侶動物対象 10 名程度)、ハノーバー獣医科大学(産業動物対象 4 名)、東フィリピン大学(現在中断)</p> <p>教員 1~2 名が引率、特に通訳などはない</p>
北里大学	<p>実習先：米国 3 大学(ジョージア大、テネシー大、パーデュー大) 中国・吉林大学</p> <p>対象学年：5 年生 夏期休暇中</p> <p>科目名：学外実習 米国は臨床ローテーションに組み込まれる：2 週間で 2 単位</p> <p>単位認定：同行教員による認定</p> <p>教員の引率：米国は各大学学生 8 名で教員 1 名、中国は学生 20 余名と教員 2 名</p> <p>現地での支援体制：先方の国際交流委員が対応 通訳は無し</p> <p>(米国の参加学生は 1 年前から英会話を受講することを義務化)</p>
日本獣医生命科学大学	<p>オレゴン州立大学獣医学部における犬および猫の不妊手術などの臨床実習に参加。</p> <p>1, 2 名の臨床系教員が引率するが、英会話能力に富んだ 4 年生または 5 年生の学生を 6~8 名</p> <p>選抜して実施している。</p>
麻布大学	<p>大学が学術協定を結んでいる海外の協定校(ペンシルバニア大学獣医学部動物病院(米国)・北京農学院(中国)・チェンマイ大学獣医学部(タイ)・中興大学獣医学部(台湾))における研修約 2 週間を「専門学外実習」の履修に代えることができる実習として認定している。研修学生数の最も多いのが米国ペンシルバニア大学で 10 名から 12 名。あとは 4 名程度。引率も教員各研修で 2 名程度で、米国以外は往路のみの引率で、その場合、受け入れ大学の担当教員が学習支援にあたってくれる。</p>
日本大学	<p>毎年夏休みを利用して 4~6 年生の希望者を対象に、アメリカ・ワシントン州立大学へ 20~40 名の学生を派遣し小動物コースと、大動物コースに分かれて約 2 週間の臨床実習を行っている。臨床実習の内容は、内科学、外科学、臨床繁殖学、麻酔学、画像診断学、エキゾチックアニマル学などで、1~2 時間の講義を受けた後、2~3 時間のウェットラボを行っている。</p> <p>さらに実習終了時に、現地で英語による試験が行われ、ワシントン州立大学との単位互換制度により、合格した学生は日本大学における演習の単位を取得することができる。また、海外での臨床実習には教員が引率し、さらにアメリカ在住の日本人獣医師や留学生に講義ならびにウェットラボの通訳や内容捕捉説明を行</p>

	い、学生の理解・習熟度に配慮した学習支援を行っている。
--	-----------------------------

4-7-4 学外で実習に利用している施設など

酪農学園大学	無
北里大学	無し。
日本獣医生命科学大学	無し
麻布大学	「専門学外実習」で外部機関、施設に受け入れてもらっている 以外は特にない。
日本大学	特にない